

次に、9番齋藤晋議員の発言を許します。9番齋藤議員

○9番（齋藤晋君） 9番齋藤です。今日もよろしくお願いいたします。

通告に従いまして、質問させていただきます。

町の人口減少ということで1つ目に取り上げております。

政府では、異次元の少子化対策ということで宣伝してやっておりますけども、町でその異次元という言葉、それが使えるような対策があるんでしょうかね。政府が決まらなければ町も、県も町も決まらないということでしょうけども、お金がなければ何もできないと、それが当たり前だと思いますけども、政府が対策の本筋がちゃんと決まって県に下りてきて町に来た時に、また町が独自でやる対策というものもやはり考えていただければと思います。五城目町が子どもを育てるのに一番いい町だと、子どもが育つのに一番いい町だと言われるような、そういう対策にしてほしいものと思います。

それでは1つ目、人口減少率というものが急激に推移していると思います。私の同級生で総務課長だった目黒君がいる時に2人で話したことがありますけども、五城目の人口っていうのはどこまで落ちるんだという話を、まだ推計が出てこない前に話したことがあります。その中で、7,000人台で1回止まるというような話をした覚えがございます。その止まった時に町がどういうふうな施策ができるか、それによってその後の人口減少というものがどうなるのかが決まるんだという、そういう話もしていたような気がいたします。

それで1番、2030年、2040年、2050年の人口はということですがけれども、私は町が独自でそういう計算ができるものを持っているのかなと思っておりましてけども、2050年という数字がないということですので、2045年の人口はどうなるんだということでお答えがあるようですから、それをお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

○議長（石川交三君） 執行部の答弁を求めます。渡邊町長

○町長（渡邊彦兵衛君） 9番齋藤議員のご質問にお答えいたします。

国立社会保障・人口問題研究所の公表している人口推移によりますと、5年刻みで2045年までの数値であり、2050年の推定値については2045年の数値として答弁をさせていただきたいと存じます。

なお、質問にあります人口につきましては、2030年は6,464人、2040年は4,755人、2045年は4,010人となっております。

以上でございます。

○議長（石川交三君） 9番斎藤晋議員

○9番（斎藤晋君） 2045年で4,010人というお答えがありました。江戸から明治になってそういう調査が始まって、五城目町、この辺の人口がちょうどその4,000人程度と、そう話してくれた仲間がおりました。ですから、人口減少というのではないと。明治に戻るんだという話をした人もおりましたけども、人口減少によって何が出てくるかということなれば、やはり税負担がなくなって、税の収入がなくなっていくでしょうし、それから教育に関しては、子どもが少なくなるわけですから、いろんな弊害が出てくるわけですね。それから町の職員も、人口減につれてやはり行政サービスができなくなって、それで職員の数も少なくなるでしょうし、それからもっと少なくなれば単独立町、これもできなくなる可能性もあります。そういう中で、やはり真剣にそういうものを捉えていかなければいけない時期ですし、そういう特別チームを作るだけの価値がある問題なんではないのかなと思います。やはり町長、副町長、総務課長、歴々の課長たちが全部その人口減、これをどうするんだということに対して話し合い、その結果どうするのかというものを、もう先ほどの私の同級生の目黒が話した7,000人の段階というものは2030年ですよ、6,464という数字ですから。ですから、もっと前なのかもしれませんけども、もう2030年の段階でそういうものを考えて実践していかなければ、本当に2045年に4,000人、明治初めのその数字に戻るとこうなった時、五城目町があるのかないのかということを見ると、本当に恐ろしい気がいたします。やはり皆さんで英知を絞って、この問題に取り組んでいただければと思います。

それで、2番目の出生率ですけども、これ人口減に一番関係することですよ。前の人口減の問題についていろいろ話があって、18歳から40歳までの出生可能な女性の人数が少ないんだということですけども、それをどうするのかということに関しては何のお答えもなかったような気がします。またここでは出生率、数だけしか聞いておりませんけども、もしそういう所見がありましたらお知らせいただければと思います。よろしく願いいたします。

○議長（石川交三君） 渡邊町長

○町長（渡邊彦兵衛君） お答えいたします。

出生数の見込みにつきましては、国勢調査、住民基本台帳に基づく人口の数値をもと

に出生率を算定し、算出した結果、2030年は23人、2040年は17人、2045年は14人となっております。

以上でございます。

○議長（石川交三君） 9番斎藤晋議員

○9番（斎藤晋君） 今お話がありましたけれども、2030年で23人、2040年で17人ということですが、この数字を教育長はどう思われますか。この数字が本当に数が合うと思いますか。教育長の考えで結構です。

○議長（石川交三君） 畑澤教育長

○教育長（畑澤政信君） お答えいたします。

今、町長から今後の出生数の推移について説明がありましたけれども、現在、小学校は今年度の1年生から1クラスになっております。この後出生数もあることから、ずっと1クラスであと小学校は続いていくという現象になっております。

いずれ本町だけでなくて周辺の小・中学校もやはり児童減少ということになりますので、その時点でまた学校をどうするかというような問題ももしかすると出てくる可能性もあります。町としては、今、教育留学も進めておりますが、できるだけ関係人口を増やしながらか、できるだけその教育留学のほうに目を向けていただいて、定住する家族が増えることを期待しておりますが、必ずしもそううまくいくとは限りませんが、そういうことを今考えてはおります。

以上でございます。

○議長（石川交三君） 9番斎藤晋議員

○9番（斎藤晋君） 小学校の建設の前、いろいろ話があった時に、子どもの人口ということで表を出していただいたりした経緯もあります。その中でやはり人数が減ってきていますし、それから町の広報見て、亡くなる人の数、それから出生、生まれてくる子どもの数を毎月見ておりますけれども、やはり五城目の人口が減るといって、それがまじまじと分かる数字がそこには出ておりました。あれを年間通すとどのぐらいなるかというのは推測つくわけですが、やはり本当に先ほどから申し上げておりますけれども、真剣に考えなければ町がなくなるというところまで来ているのではないのかなと思います。

教育も大事です。でも教育するためには子どもがいなければいけません。子どもがいなくて教育、それはもう何ともならないですよ。行政サービスするにしても町民がいなければ何のサービスなのかということにもなりますし、その前にはもう単独で町が成

り立たない、そういうところまで行くんでしょうけれども、そうならない前に何とか手を打っていただければと思います。「斎藤、おまえも考えろ。」と言われれば、私も一緒に考えたいと思います。

それでは次の質問に移りたいと思いますけども、町の自然環境についてということで、最近私も年を重ねてきたせいか、野山、それから自然、そういうものに本当に目が行っておりまして、花を見るたびにきれいだなと思いますけども、自分でそれをできるかということを見ると、たまにこの前使いましたけども、草刈機を使って草を刈ってて自分の腰痛くなって、2日ぐらい容易でないもありました。やはり年には勝てないなと思いますけども、この大きい2番ですけども、(1)と(2)は山についてであります。(3)と(4)に関しては川についてであります。で、1と2と一緒に答えいただければと思いますし、3と4も一緒にということをお願いできればと思います。

先ほどの質問、前の質問者の中にも取り上げておりましたけども、森山を取り上げておりましたけども、その観光の目玉になり得る森山、これももうヤマビルがかなり生息しております。この前ちょっと行ってきたんですけれども、火葬場の上をちょっと行くとお不動さんがありますけども、あそこの道、荒川滋議員が整備したりいろいろしたりしておりますけども、あそこの道もやはりすごいヤマビルが発生して道までおりました。これはもう大変だと思いましたが、春、山菜、最近はミズだけではなく、アイコも採れるような沢が増えてきました。そういう沢にアイコ採りに行った人もヒルにつかれて帰ってきております。杉木のそういう時もヒルにつかれたという人もおりました。やはりこのヒル対策っていうのは、もう奥の話ではなく、もう町の話でもあると思います。そのうち私のうちの庭にもヤマビルが発生するのかもしれないし、武田副町長のあのあたりでは、もう既にいるのではないかと思いますけども、その対策っていうのはどうすればいいのかということをお伺いしたいと思いますし、その現実策、本当にこれは効くんだというような策についてお示しいただければと思います。

それから、2つ目の森林伐採後ということで、私も山が好きでよく山奥に行きますけども、伐採が終わって何年経っても植林もされないでそのままになってるところもあります。それが私有林、私の山でなく、国の山というところでもそういうのが増えております。杉沢の奥の国有林、そこも伐採後何も植えないんだという話もありますし、阿仁のほうに行く道々にもそういうところが見受けられます。

この伐採後、森林、何にもしなければ20年経てば雑木林が生えて、昔の山に再生さ

れるからおまえたち心配するなという話もあります。本当はそのほうがいいんでしょうけども、杉を植えるより、雑木林がいっぱい昔のように林のほうが自然にとっては一番いいのかもしれませんが、町にとってどうなのかということ考えた時に、今後五城目の森林、山はどういうふうになるのかということでお伺いしたいと思います。よろしくをお願いします。

○議長（石川交三君） 2点について、渡邊町長

○町長（渡邊彦兵衛君） お答えいたします。

まず1つ目のヤマビルにつきましては、希望する町内会に対しましてヤマビル駆除剤の配布事業を実施しております。実際の散布作業は町内会にお願い、実施していただいております。一定の効果を上げているものと考えております。

森山において駆除剤の散布は行っておりませんが、ヤマビルとの接触を最小限にとどめるよう、遊歩道周辺は適宜草刈りをして実施しております。

2つ目のご質問でございますが、森林の再造林ということでございますが、森林伐採後、植林をしない山が広がっておりまして、今後、町の森林はどうなるかのご質問でございます。

秋田県の令和4年度の再造林率は4割ほどと伺っておりますが、町では昨年度より、森林環境譲与税を活用した再造林補助を実施しておりまして、昨年度は15haの植林について補助をしております。今後につきましても、森林環境譲与税を活用しながら再造林の増進に努めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（石川交三君） 9番斎藤晋議員

○9番（斎藤晋君） ヤマビル対策について、今町長からお伺いして、そういう薬とか、そういうものを望めばということですけども、その対策は町としては必要かもしれませんが、これからも続けてほしいと思いますけども、根本的なそういう対策には何もならないと思います。やはり町が働きかけて、営林署、それから県、国、そういうところに働きかけて、やはり全体的にそのヤマビルを少しでも減らすような、町民が森山に遊びに行けるような、そういう環境にするために、町だけではなく、営林署、それから国、県、そういうものに働きかけて、まとまってやって、やらなければ、その対策にはならないと思います。農林振興課でそういう話は出ているのか分かりませんが、これからやる気があるのか、働きかけるのかということだけお伺いしたいと思います。

○議長（石川交三君） 大石農林振興課長

○農林振興課長（大石芳勝君） 斎藤議員にお答えいたします。

ヤマビルの山林中における一斉の駆除でございますけれども、現在は有効な手段というか手立てはないと言われてますけれども、今ご指摘されましたように、国、県などへ確認といたしますか、働きかけて、前に進めるように今後対応していければと考えております。

以上です。

○議長（石川交三君） 9番斎藤晋議員

○9番（斎藤晋君） 自分のところで、町でできないもの、そういうもの、町の管轄ではないからできないというそういうものはないと思います。やはり町民が苦勞して、それから町のシンボルである森山がこれほどヤマビルで被害を受けているということなれば、それを打開するために町はどういうふうにしなければいけないんだと、その課ではどうというふうにしなければいけないんだというのを真剣に考えてもらいたいと思います。やはりできるまでお願いする、できるまで申請する、そういう気持ちがあれば何ともならないと思います。

最近私、除雪の話をしなくなりましたけれども、諦めたわけでもありませんし、私の後輩が、後輩っていうか後釜ができたように感じますので、その話をしないだけで、やはり毎回夏でも除雪という、そういうようなその取り組みを町の職員の方々に持っていたいただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

それから次に移ります。私のライフワークであります投網、川で遊ぶために投網が大好きで、投網の免許も、免許っていうか資格もちゃんと取って、漁協にも入りましたし、そのお金も払って、毎年漁業協同の役目も果たしております。しかし、6月だというのに、橋の上から川を見ても魚のさの字というか、おっきい鯉だけはいますけれども、あとほかの小さいオイカワ、それからウグイ、そういうような魚の姿が一切見えないですよ。中学校の下、新しくできた堰堤の下、あそこに行けば、水が流れてる時は水門から出てくる水の浅瀬をバシャバシャと上流に遡る小さい魚がいるわけですけども、それも見えない状態です。この前、私の友達が中学校の橋の下に行ってあそこの老人ホームのところ、富津内川と馬場目川が合流するところ、中洲ができて大変ちょっと余りよくないところになってますけれども、あそこに鯉が30匹ぐらいいて、その中に白い魚影があったという話がありました。何か分かんないけども、でも今頃いるのはサクラマスですね。

それが辛うじて1匹いたと。あとは鯉しかいなかったという話であります。それから6月の末、7月になると、今度私が網を使って取るんですけども、ゴリ取りというのもありますけども、そのゴリ、今年上ってくるのかなと危惧しております。それからヤツメ、ヤツメもおっきいやツメと、それからイトヤツメというのもありますけども、昔はよくイトヤツメを取って牛乳瓶とかコーラの缶に入れて持ち帰った記憶もありますけども、そういうものの姿も一切見えなくなっております。

漁業協同組合では、この前アユの放流をしました。それから、その後にヤマメ、イワナというのも放流しております。この前、ちょっと内情は分かりませんが、ちらっと聞いた話によりますと、その放流の補助金が減ったのではないのかなという話もありました。漁協っていうのは今30人の組合員がおりますけども、30人を下回ると漁協もなくなるのかなという話まで出ております。漁協がなくなればどういふふうになるのかと。前も伺いましたけども、もう一回聞いてみたいと思います。漁協がなくなれば大体どういふふうになるのかというのは分かりますが、それと、町の河川の魚の種類の数、そういうものが減った原因は何かと、これも前伺いましたけども、分からないような話ですけども、真剣にこういうものを対策するとすれば、こういうものもその後調べているのかなという気がして、もう一回じゃあ聞いてみようかと。これ聞いても「分かりません。」であれば、「また調べろ。」と言うしかないのかなとも思いますので、この2つについてお知らせいただければと思います。

○議長（石川交三君） 渡邊町長

○町長（渡邊彦兵衛君） お答えいたします。

まず1つのご質問の補助金、それから漁協の質問にお答えさせていただきます。

環境にやさしい馬場目川とするための運動といたしまして、町では全町及び地元高校生によるクリーンアップの実施に取り組んでいただいております、県が行っております八郎湖水質対策にもあります、代かきにおける浅水管理、下水道未整備地区への合併浄化槽設置の推進などをお願いしつつ、馬場目川漁業協同組合の事業より放流した稚魚が定着するためにも自然豊かな環境の維持に努めてまいりたいと存じます。

また、漁協への補助金が減ったとのことではありますが、令和2年度に県の新型コロナ関係事業として放流魚の買い上げがあったことにより、令和2年度のみ補助金が減額したものでありまして、通常年度では補助金は減額されていないものと認識しております。

また、漁協がなくなると、これまで継続いただいている稚魚のその放流事業がなくな

り、河川の荒廃を防ぐ見回り、また、除草をはじめとした馬場目川の美化活動に影響があるものと思っているところでございます。

2つ目は、魚種類が減った原因は何かということでございますが、町の河川の魚数や魚種類が減ったその原因は、昨年8月の豪雨をはじめ、近年は大雨が毎年のように発生しているために、放流稚魚に与える影響は少なくないものと考えます。これらに加えて、河川への土砂流入による川虫などの魚の餌の減少、河川整備による隠れ場所の減少、また、カワウをはじめとした鳥類の食害などの要因によるものと考えられます。

以上でございます。

○議長（石川交三君） 9番斎藤晋議員

○9番（斎藤晋君） 魚がいなくなったというのには諸説あると思います。でも一番なのは、やはり川の汚染だと思います。汚染というのは泥ですね。山の森林伐採、それから伐採するために道を造るためにブルで道を造り、雨が降るとその泥水が川に流れ込む、その泥が下の石を覆い、コケがなくなる。コケがなくなるということは魚も食えない。それから川虫も増えないという、それが一番の原因だと思います。やはり石を起こして裏を見ると川虫がついている。それが当たり前ですけども、そういうものもいなくなっている。それから、アユは6月までは虫を食べておりますけども、7月頃からコケを食べ始めます。肝心のそのコケを食べる時に石の上にコケがないんですね。茶色くなって、泥々になって、コケがみんな死んでるんですよ。それはやはり水の汚れ、それからダムの放水と、それから田んぼの取り水、そういうものも兼ね合いがあるんでしょうけども、川の水の量が極端に減る。そういうものもありますし、昔であれば、おっきい石が川にごろごろありました。そういうものがなくなって、小さい石、そういうものしかなくなって、今、コケがついてるようなものはコンクリートの残骸です。そういうものしかコケがついてない状態であります。やはりその状況の中で、やはり昔のような川を再生するというものは無理なのかもしれません。しかし、私が小さい時、手づかみで魚を取ったような、そういう川に戻ってほしいと願う私からすれば、やはり何とかしてみたいなという気持ちもあります。

それから、古い職員の方というのはいないですよ。副町長ぐらいでしょうから。漁業協同組合ができたというのは、やはりそういう河川を守る、それから魚を守るというそういう意味合いで、国が率先してそういうものを働きかけて、組合を作ってくれということのできたのが漁業協同組合でありましょうし、みんなで川を守らなければいけな



いという意識があったからできたんだと思います。その川が死んでしまえば、漁業協同組合、そういうものもいらないでしょうし、何のための漁協かなど、何のための川なのかなど。ただ水が流れていて農業用水を供給してるだけの川なのかなど。

やはり城と川のあるまち、リバーサイド構想というものも加賀谷前々町長が私に話してくれました。いい構想でしたけどもね。蔵も再生して、川に遊歩道をつけて、恋人たちが夜歩けるようなそういうリバーサイド構想、そういうものも目論んでいたような気がします。お酒ではなくコーヒー飲みながらそういう話をした記憶がありますけれども、やはりそういう川になってほしいですし、町民が憩う場所になってほしいと思います。それから、子どもたちが川に入って嬉々とした歓声を上げて、それで魚を追いかけるとか、そういうふうな場면을私は希望してやみません。何とかそういうふうにしていただければと思います。

それでは3つ目の災害、それから防災についてということでお伺いいたします。

地震とか洪水ということでは想像を絶する規模が発生しております。最近では想定外という言葉よりも30年に一度、50年に一度、100年に一度というような表現で報道されていますけれども、そういう災害が増えております。前、地震とかそういうものを聞いた時、やはり町で備えるためには想定というものがなくて、その想定に見合う準備はしているという話がありました。その中で、今後町に被害を及ぼす災害というのは一番何が可能性があるのか。それもまたその想定をする基準っていうのはあるんでしょうけども、まずそれを伺いたいと思います。

○議長（石川交三君） 渡邊町長

○町長（渡邊彦兵衛君） お答えいたします。

五城目町地域防災計画では、風水害に加え、雪害、地震災害などの自然災害を想定しておりまして、災害予防計画、災害応急対策計画を定めて、その対策を講じておるところでございます。特に、強風や大雨による洪水、土砂災害などの風水害に対する対策につきましては、昨年8月豪雨の教訓を生かすべく、防災知識の普及・啓発、各種防災訓練の実施、自主防災組織などの活動支援など、自助・共助・公助による災害に強いまちづくりを目指してまいります。

以上でございます。

○議長（石川交三君） 9番斎藤晋議員

○9番（斎藤晋君） いや、1番のこれは町に被害を及ぼす災害は何かということでお伺

いしたわけでありまして、前に小玉住民生活課長が答えた中で、大雪の時に地震があった時、それが五城目に一番の被害を与える災害だというそういう話をされた記憶があります。ですからそういうものを聞いているんで、担当課長がもしいらっしゃいましたら、その一番の被害を与える災害っていうのは何かということでお答えいただきたいと思います。

○議長（石川交三君） 石井住民生活課長

○住民生活課長（石井一君） 9番斎藤議員にお答えいたします。

町の地域防災計画の被害想定では、全壊・半壊を含めた、地震の話ですけれども、全壊・半壊を含めて約4,000棟の建物被害、死者・負傷者も600人前後の想定しており、避難者も4,500人とされておりますので、日頃の訓練等を通じて被害を最小限に抑えられるよう、災害対応力を高めてまいりたいと思います。この数字は、今、前小玉課長の言われた、冬に直下型の地震があった時の被害想定であります。

以上です。

○議長（石川交三君） 9番斎藤晋議員

○9番（斎藤晋君） 大雪の時に屋根にいっぱい雪が積もっていて、その重みがあるにもかかわらず、あの時、小玉課長と話したのは震度7という、それが最大限の想定地震だというふうに聞いておりましたけれども、その時に家屋が潰れる、その被害が一番大きいだろうという話を聞いた覚えがあります。やはり今、震度7ということでしたけれども、マグニチュード9、この前の福島沖地震、そういうものもありますし、日本海に地震の区域が男鹿半島沖、それからまだ二、三か所、秋田県のところにもあります。そういうものを想定して、津波もあれですけれども、震度、それがどのぐらいになるのかというのは、計り知れないものを感じております。

去年、大雨でああいうことがありましたけれども、その大雨に関しては台風と一緒になるとかそういうことで、九州から四国、それから関東近くまで、東海関東、そこまでのいろいろな被害が出ておりますけれども、ああいう被害が日常茶飯事になってきているような気もいたします。もう想定外、100年に一度、1000年に一度というそういう被害が出てもおかしくない、その時代なのかもしれません。やはり想定想定ということで、県、それから国から来た、こういう想定で考えてくださいとかという基準じゃなく、我が町はもっと上の想定で考えると。町民が安全に避難できるような想定を、国のその想定よりももっと厳しく、県の想定よりももっと厳しく、そういうところで作るんだとい

うふうなことにしていただければと思います。やはりできたものを持ってきて、それを五城目町ということで置き換える、そういう、避難のマニュアルではなく、やはり町に合った、即したそういうものを作っていただければと思います。

それでは2番目の、(2)番目に移ります。過日、防災訓練に参加しましたけども、私も不安に思いましたし、一緒に行った仲間も不安に思いましたんで、ここに羅列させていただきます。イロハニホまでありますけども、これ一緒にお答えいただければというふうに思いますが、よろしいですか。

イ、避難場所開設のための手順と昼と夜との違いはということはいですね。

ロですが、避難訓練では、避難した町民が避難場所のテント設営から食事の準備までなど、避難所の運営を避難した町民が主となり運営すると聞きましたが、物のありかも分からない、それからスイッチもどこにあるのかも分からない段階で、不安に思ってる避難民がリーダーシップを取って、即、避難民をまとめることができるのかということも考えました。おかしいなど。

それからハ、避難所運営のために避難所のリーダーを務める避難所リーダー育成講座開設、避難訓練よりも先にあるべきではないのかなということですよ。

それからニ、避難所開設のためのマニュアル作り、避難所ごとに作るべきであります。これは先ほども言いましたけども、その場所に合ったものということですね。物のありがどこにあるのかという図解説明までして、スイッチがどこというようなそこまでその避難所ごとのマニュアルがあるべき。こういうものがあって初めて、避難民が自分たちで何とかやってくれと、応援が来るまで何とかやってくれというのであれば話は別です。何もない中で、ただやってくれと。この前ちょっと頭に来て、避難訓練の時に頭に来てちょっとくっつきかかりましたけども、でもそれが現実だと思います。できるはずがない。夜中に地震が来て建物が倒れて、避難する人間たちが集まって、あ、おまえこっち、おまえこっちって、そういうふうに指示できる、そういう状態にあるかということを考えてみていただければよく分かると思います。暗い中でみんなが恐怖におののいて、またいつそういう地震が来るのかということを見ると、もう居ても立っても本当にいられないと思います。そういうものを避難訓練としてやるのであれば、それなりの準備とそれなりの教育をしてそういうものを作るべきで、避難民に、はいやってください、そういう説明で避難訓練をやったんでは何にもならないというふうに思いました。その点についてどういうふうなお考えなのかも伺いたいです。

○議長（石川交三君） 渡邊町長

○町長（渡邊彦兵衛君） それぞれにお答え申し上げます。

まず1つ目の避難場所の開設のための手順等々でございますが、基本的に町では安全に避難ができるよう、日没前の明るいうちの避難を呼びかけておりまして、避難所を開設しております。やむを得ず夜間に避難情報を発令し、避難所を開設する場合の開設手順などについては、定期的に各避難所の施設管理者などと打ち合わせを行っており、防災備品の点検などを含めて実施してきております。

なお、夜間の避難場所開設時は、職員2名以上を基本として配置してきております。

2つ目は、避難民がリーダーシップ等々でございますが、基本的に避難所の開設運営は町が行います。各避難所に職員を派遣し、施設管理者などと連携しながら開設の準備に当たります。その際、必要に応じて避難された住民の皆様方にも開設準備や運営協力を呼びかけております。大規模災害時には多数の避難者が発生し、避難生活の長期化が予想されることから、その被害を最小限に抑えるためには自助・共助・公助それぞれが災害対応力を高めて連携することが必要であり、今後も平常時における訓練などを通じて避難所運営についての認識を深めていただけますよう努めてまいりたいと存じます。

次に、避難訓練よりも先にあるべきではない等々でございますが、町の総合防災訓練におきましては、参加された五城目地区町内会の皆様方よりそれぞれ避難所への避難訓練と避難所の開設・運営訓練、避難所体験を実施していただきました。

ご指摘のありました「避難所リーダー育成講座」につきましては、大変貴重なご意見と受け止めまして、現在実施している防災出前講座と合わせて進めてまいりたいと存じます。

次に、避難所開設のためのマニュアル作りでございますが、町では「避難所運営マニュアル」を作成しておりまして、避難所開設までのフローなどを定めております。このたびの総合防災訓練の反省点などを踏まえ、より分かりやすく実効性のあるものとして整備を進めてまいります。

最後のご質問の教育訓練、またマニュアルはあるかということでございますが、町の総合防災訓練をはじめ、指定避難所を会場とした避難訓練実施の際は、各施設を所管する担当課職員も参加しておりまして、教育訓練の機会としております。

避難所運営マニュアルにつきましては、小規模な災害または災害の発生する恐れのある状況から、大規模災害において町が避難所を開設することを想定して作成したものと

なっております。本マニュアルに基づいた訓練などを定期的実施し、改善点を洗い出し、必要に応じて修正を行ってまいりたいと存じます。

以上でございます。

○議長（石川交三君） 9番斎藤晋議員

○9番（斎藤晋君） ここが一番大事ですけども、ロのところに、町民が避難所のテントを設営から食事の準備まで、避難所の運営を避難した町民が主となり運営するというふうに言われております。消防長、こういう教育をして、避難訓練をやってるんですか。これは防災の指導員がこういうふうに我々に指導したんですけども。

○議長（石川交三君） 石井住民生活課長

○住民生活課長（石井一君） 9番斎藤議員にお答えします。

基本的に避難所の開設運営は町の職員が行うこととなっておりますので、大災害の時などは、やはり避難された方々からお手伝いをいただき避難所の開設をお願いすることとなっておりますので、よろしく願いいたします。

○議長（石川交三君） 9番斎藤晋議員

○9番（斎藤晋君） そこをちゃんと確認して、これからの防災訓練の時にもそれを徹底していただければ、私のように腹が立つ人間もいなくなるでしょうし、不合理なこともなくなると思いますが、言ったあれが誰だというのは言いませんけども、やはりおかしいものはおかしいと私は言っておきたいと思えます。

時間がないので、過去、津波の時に、これも小玉課長だったと思えますけども、五城目には津波の被害はないというふうに言われておりました。でも、五城目も広いわけですよ。八郎潟の河口、馬場目川のところにも大川というところがありますし、その大川っていうのは海拔4mというふうに伺っております。そこも津波の被害がないのかと。それから、本当に旧町まで津波の被害がないのかと。前の想定と違ってきてるのかなと思ひまして伺いたいと思えます。

○議長（石川交三君） 渡邊町長

○町長（渡邊彦兵衛君） お答えいたします。

本町は海には面しておりませんが、町のハザードマップに掲載しておりますとおり、地震により八郎湖堤防が75%沈下などの条件により、大川地区の農地や道路の一部が津波浸水想定区域となっており、その浸水想定は最大1mから2m未満となっております。また、今年3月には、津波防災地域づくりに関する法律に基づき、当該区域につき

ましては津波災害警戒区域に指定されております。指定にあたっては、県と合同により大川地区において住民説明会を開催するなどの対応をしてみましたが、ハザードマップによる確認などについて引き続き周知してみたいと存じます。

以上でございます。

○議長（石川交三君） 9番斎藤晋議員

○9番（斎藤晋君） いや、大川の舟付場団地、あそのそばの人たちがやっぱりそれを本当に心配しておりました。舟付場団地が4戸か5戸、そのうち入ってるのがもう少ないはずですよ、浸水ということで。だからやはりそういう意味合いもありまして、やっぱり心配している地元の方も多くいらっしゃると思います。やはり町、町民の不安を消すためにも、やはりそういう説明会をちゃんとやっていただいて、浸水が1mということであればあの辺はもう床上浸水、2mであれば2階に逃げなけりゃいけないというふうな想定にもなると思います。やはりそこを丁寧に説明していただければと思います。

最後の質問ですけど、花のある町にということで1番だけお伺いいたします。

雀館だけではなく、けやき通りの下ということ、長栄堂の前の通りですね、けやきの植わさってる通り、あその下に緑地がありますけども、昨日おとといでもうみんな刈って、草刈りをしておりました。スズランの苗までみんなきれいに刈っておりました。本当にきれいだなというふうにも思いましたけども、植えた人はどういうふうに思ってるのか、そこが一番心配ですけども、でも、あそこを草だけでなく、春から秋まで、秋までというのは無理かもしれませんけども、花でいっぱいになりたいなど。もう五城目に来た人が「あ、町、五城目町はきれいだな。」というふうに思える、そういう町になってほしいなど、雀館をそういうふうにしたいなど思いましたけども、まだ草刈り、剪定とかそういうのもあって、それが終わってからということですけども、今度はそのけやきの下、そういうものもこういうふうにならないのかなと思ひまして、計画はないものかなと思ひましてお伺いいたします。

○議長（石川交三君） 畑澤教育長

○教育長（畑澤政信君） 9番斎藤晋議員のご質問にお答えいたします。

雀館公園については、今年度及び来年度、樹木等の剪定及び伐採などを計画しております。その後、樹木や花木の状況を踏まえ、景観等を考えてまいります。

現在、植樹などに植栽されている箇所は、近隣住民の善意・好意に任せているところでございます。また、農協前や広ヶ野橋から中学校までの間は、花いっぱい運動に参加

している団体が植栽するなど有効利用を行って美化に努めていただいております。

ただいま斎藤議員からご提案いただいた春・夏の花いっぱいのもちづくりについては、今後、各課室や関係機関と連絡を取り合い、町並みの景観づくりの可能性について検討してまいります。

いずれ五城目町は県の花いっぱい運動の優秀な成績を収めておりまして、この花づくりいっぱい運動の五城目町のその思いを引き続いていきたいというふうに思っておりますので、よろしくご理解のほどお願いいたします。

- 9番（斎藤晋君） 時間になりましたけども、やはり花いっぱい運動を推進している町内・団体もみんな年寄りまして、みんなできないとかという話も出ておりますし、実際やめた町内もあります。私たちも土地を借りてやっておりましたけども、年が年で無理だという話が出て、やらなくなりました。やはりそうではなく、そういう人たちが努力してやってきた運動ですから、町ももうちょっといろいろ考えていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

ありがとうございました。

- 議長（石川交三君） 9番斎藤晋議員の一般質問は終了いたしました。

以上で本日の会議は全部終了いたしました。

本日は、これで散会いたします。ご苦労様でした。

---

午後 4時44分 散会